



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

Classes to acquire "logical writing ability" : Efforts of school setting subjects " Contemporary Japanese Language I" and "SSH Contemporary Japanese Language I"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日渡, 正行 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/00173704">http://hdl.handle.net/2309/00173704</a>

## 「論理的に書く力」を獲得する授業

— 学校設定科目「現代文 I」「SSH現代文 I」の取り組み —

Classes to acquire "logical writing ability"

— Efforts of school setting subjects

"Contemporary Japanese Language I" and "SSH Contemporary Japanese Language I" —

国語科 日 渡 正 行

### <要旨>

「現代文 I」「SSH 現代文 I」は、「論理的に」「書くこと」の力を育むために作られた学校設定科目である。国語にとどまらず、生徒たちが他の科目や探究で使える力を培うことを目指し、様々な試行錯誤がなされた。試験はなく、パフォーマンス課題とループリックを利用して、生徒の力を評価した。令和 3 年度でこの学校設定科目は終了となるが、新しい学習指導要領の「現代の国語」に確実につながっていくものとなっており、他教科や探究活動との連携をさらに深めていく必要がある。

<キーワード> 書くこと 論理 言語活動 表現 学校設定科目

## 1 「現代文 I」「SSH 現代文 I」の概要

### 1-1 科目設定の目的と経緯

「現代文 I」「SSH 現代文 I」は「論理的に書くこと」を目的とした学校設定科目（高校 1 年生、1 単位）である。現行の学習指導要領によれば、1 年生の国語総合は「総合的な言語能力を養うため、内容の A, B, C 及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について相互に密接な関連を図り、効果的に指導するようにする。」<sup>①</sup>とある。「国語総合」は「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」そして「〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕」についての力を育む教科であり、総合的にことばの力を育てることを目的とする。本校の学校設定科目「現代文 I」「SSH 現代文 I」はそのような「総合的に」という部分から離れ、「書くこと」に集中する。また、「書くこと」は、論理的なことばのみを想定しているわけではなく、ものの見方・考え方を豊かにするという感性的・情緒的なことばを書くことも含まれている。「国語」全体としては、「書くこと」だけに偏らず、そして「書くこと」における「論理／感性」にも偏らずに、総合的に学んでいくことが目的になるだろう。しかしながら、「書くこと」の「論理」的な部分に特化して実施されたのが「現代文 I」「SSH 現代文 I」である。現行の学習指導要領の「国語総合」「書くこと」の「イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。」<sup>①</sup>に当たる。

「現代文 I」「SSH 現代文 I」は国語の領域における横断性や総合性は目指さないが、教科や科目を越えた横断・総合は強く意識している。「現代文 I」が学校設定科目として作られるとき、「国語」側の思いと他の教科からの要望とが重なり合うことで、「論理的に書くこと」に特化した内容が構想された。もともと本校では、各教科で多くのレポート課題を課している。例えば、1 年生の「地理実習」(地理 A)「野外実習」(地学基礎)のレポート。地理 A や保健の授業で、プレゼンテーションを行い、それをレポートにする、等々。それらのレポートにおけることば遣いについてどのように扱っていけばいいかということは、本校国語科の長年の課題であった。また、各教科からも、論理的な文章を書くことについて、国語で集中的に行ってほしいという要望が出されていた。その要望は、探究活動によって生徒たちが長い論文を書く機会が増えると、ますます強まっていった。その状況を踏まえて生まれたのが「現代文 I」「SSH 現代文 I」であるため、他教科や探究活動との連携を常に意識する科目となったのである。「現代文 I」「SSH 現代文 I」は他教科や探究活動との関係において、横断的であり総合的である。

平成 27 年度にカリキュラムが改まるのをきっかけに、「現代文 I」が構想された。1 年生は、それまで「国語総合」5 単位のなかで、現代文編 2 単位・古典編 3 単位が実施されていた。その「国語総合」を標準単位数の 4 単位に

変更し、そこに「現代文Ⅰ」1単位を加えたかたちで、1年生の国語が新たに構想されたのである。古典が1単位減ることになるのは、国語科としては逡巡を感じないわけにはいかなかった。高校の「国語総合」における古典の意義が減じたわけではなく、古典に使うことができる時間が減ることは、取り返しがつかないことになるかもしれない、という思いは国語科の教員にもあった。それでも、話し合うなかで、「論理的に書くこと」に特化した授業が必要であろう、という結論に至った。他の教科からの要望もあり、そして何よりも「国語」におけることばの扱いについて、論理的なことばを表出していく力は今後ますます必要になると考えたからである。

学校設定科目の名称については、様々な案が出されたけれども、週に1回実施するので「現代文Ⅰ」という案が採用された。「国語」「現代文」「論理」「書くこと」「表現」等のキーワードはあるものの、それらを組み合わせても、なかなかじっくりとこなかった。特に、「表現」というキーワードは「国語表現」というものと重なり、「(国語科)的に」意図が分かりやすくなる一方、既存の科目のイメージが教員の中に生じてしまう恐れがあった。これまでの「書くこと」中心の科目以上に、「論理的に書くこと」だけに集中した授業の名称として、例えば「論理表現」では相応しくないのではないかという話になった。そこで、紆余曲折はあったものの、かなり抽象的な名称である「現代文Ⅰ」が採用されることになった。「国語総合」の「現代文編」とは違う科目であり、また、2・3年生の時に実施する「現代文B」にもつながらない名称のつもりである。また、先ほども書いたが、この「Ⅰ」は、「Ⅱ」や「Ⅲ」に発展していくものではなく、週に1回行われるという意味での「Ⅰ」である。

2人の教員が4クラスずつ担当する、というかたちで始まった「現代文Ⅰ」だったが、試行錯誤の結果、4名で2クラスずつを担当するという流れに落ち着いた。本校の1学年は40数名のクラス×8クラス。その半分ずつを2人の教員が担当するというやり方は、生徒が書いたものを確認し評価する「現代文Ⅰ」の授業のあり方とうまく合わなかった。負担の集中を招いたためである。6名の教員で1～2クラスを担当するというかたちも試したが、週に1回の1クラスだけ、という状況は授業づくりの費用対効果という面で効率性に欠けたものとなった。試行錯誤の結果、最終的には、それぞれの授業の内容と課題とがほぼ完成していたから、ということもあるかもしれないが、4名の教員が2クラスずつ担当する、というかたちで落ち着くことになった。

平成30年度、「現代文Ⅰ」は名称を変更し、「SSH現代文Ⅰ」になる。それまでもSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の中核であった探究活動を強く意識し、論文の書き方を学ぶ授業になっていた。単なる文章の書き方にとどまらず、探究のテーマの見つけ方、帰納・演繹といった思考の進め方なども「現代文Ⅰ」の授業内容に含まれていた。そのように、SSHにつながる授業が、数学や理科だけではなく、国語でも積極的に行われていることをアピールすべく、「SSH現代文Ⅰ」へと名称を改めたのである。SSHの取り組みでも、テーマの決め方や論理性といった内容は、1年生のSSH探究基礎の講座に吸収したりしている。名称が変わったことによる内容の変更はなかったが、生徒と教員とにSSH・探究活動につながるものとして学んでいるという意識が芽生えることになった。

「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」が目指している「論理的に書くこと」は、国語全体から考えると、ごく一部の領域に過ぎないが、領域を狭めることによって目的が明確となった。また、他教科や探究活動とのつながりを意識し、実践的に「書くこと」を意識した授業内容になっている。そのため、他の授業との連携の試みることもなった。

## 1-2 「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」の流れ

「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」の対象学年は1年生、週に1回の授業である。1年生では「国語総合」4単位(現代文編2、古典編2)も実施しており、それと並行して「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」が進んでいく。「国語総合」では従来通りの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の授業を行い、それとは別に「論理的に書くこと」を目的とした「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」がある。「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」は「国語総合」から独立しており、いわゆる教科書は扱わず、授業の1時間から2時間程度で終わる課題に取り組むことで書く力を育む。定期考査は行われず、課題への取り組みを中心に評価される。学習材はA4で配布し、各人に配られた二つ穴のファイルに綴じていく。課題も基本的にはA4の用紙に書いて、提出する。ただし、令和2年には本校では生徒が1人1台、パーソナルコンピュータを持つことになり、Googleクラスルームで課題をこなすことも多くなっている。新型コロナウイルスへの対応でオンライン授業が実施されるようになって、PCでの課題提出はあっという間に増えてきている。

「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」は短い文をつくらんとこ

ろから始まり、3学期には800字程度の意見文を書くことになる。1学期はより良い「文」を作ることを目指す。2学期は複数の「文」からなる「パラグラフ」を意識して文章を書く。3学期は複数の「パラグラフ」を組み合わせた「文章」を書く。3学期に800字程度で書いていく意見文が一年間の総まとめとなる。

発足当時、「現代文Ⅰ」には「論理的に書くこと」の他にも「探究活動」という柱があったが、次第にそれは別に時間に行うものになっていく。「探究活動」については、テーマや仮説の設定や論理的思考を中心に、2年生の活動につながる内容を実施していた。「書くこと」から独立していたわけではないが、1学期にテーマを考えるとどのようなことなのかを確認し、2学期には自分なりのテーマを考える。2学期終わりから3学期にかけて、テーマについて言語化する、というもう一本の流れがあった。しかしながら、「探究活動」に関しては、1年生に対して「SSH探究基礎」<sup>②</sup>という時間が作られることになり、「現代文Ⅰ」で行っていた内容はそちらに移っていくことになる。例えば、「テーマ決め」や「帰納・演繹の考え方」は、「現代文Ⅰ」で国語の教員が行うものから、「SSH探究基礎」の講座として、他の教科の人たちも含めて実施されるようになっていった。

以下に、平成27年度の「現代文Ⅰ」の流れを示す。

#### 【平成27年度「現代文Ⅰ」】

##### 〈1学期〉

- ①導入、「現代文Ⅰ」とは何か（1年間の流れを示す）
- ②読点の打ち方（日本語の特色、分かりやすさに向かうためには）
- ③短文への意識（わかりにくい文にならないための心構え）
- ④練習課題、和文和訳（無生物主語という概念を中心に、日本語を日本語に書き換えてわかりやすい文章について考える）
- ⑤テーマ決定の練習1（クラスでグループを作り、探究や仮説について考える）
- ⑥テーマ決定の練習2（自分なりにテーマを作り、仮説として成立しているか見合う）
- ⑦地理実習、過去の悪文検討（地理実習のレポート作成に絡めて、過去の悪い表現の例を参考に、より良い表現を考える）
- ⑧地理実習レポートの再現・検討（自分たちが書いた地理実習のレポートを素材に、よい文章・悪い文章について考える）

- ⑨名文と悪文（名文・悪文と呼ばれるものの特徴、小説や詩のことばと、論理的文章のことばの違い）
- ⑩テーマ決定に向けた課題（夏休み中に考えておくべき探究のテーマについて）

##### 〈2学期〉

- ①二重の意味を持つ文章
- ②縮約の仕方（要約の一種である縮約を通して、文章の中核、筆者の述べたいことを意識する）
- ③縮約の実践（実際に縮約をしてみて、文章の論理構造等について学ぶ）
- ④演繹と帰納
- ⑤要約の仕方（要約を通して、文章の書くとなる部分や筆者の意見について意識する）
- ⑥要約の実践（実際に要約をしてみて、縮約との違いを考えながら、文章の構造について学ぶ）
- ⑦パラグラフ・ライティング入門（トピックセンテンス＋サポーターセンテンスという基本を学ぶ）
- ⑧パラグラフ・ライティング課題（探究テーマを200字で書くことを通して、探究テーマについて考えつつ、パラグラフ・ライティングを実践する）
- ⑨パラグラフ・ライティング振り返り（お互いに書いたものを見合って、探究テーマについて考えつつ、パラグラフ・ライティングを身につける）
- ⑩探究テーマの決定について

##### 〈3学期〉

- ①パラグラフ・ライティングの振り返り
- ②800字意見文1（書き方とループリックの説明）
- ③800字意見文2（課題文読解）
- ④800字意見文3（意見文を書く、1回目）
- ⑤800字意見文4（課題文読解）
- ⑥800字意見文5（意見文を書く、2回目）

（下線を引いたものは、探究活動に関わる活動）

以上、平成27年度は、「書くこと」と「探究活動」の双方が柱となっていた。また、地理実習のレポートと絡めて、他教科との連携（ここでは「地理A」）も進められていることが示されている。例えば、他の教員は、〈一学期〉の課題として、「岩石の観察と説明」（「地学」との連携）を入れており、また別のかたちで他教科と連携している。

一方、令和3年度は以下のようになっている。

### 【令和3年度「SSH現代文Ⅰ」】

〈1学期〉

- ①導入、「現代文Ⅰ」とは何か（1年間の流れを示す）
- ②800字意見文（3学期意見文作成後に比較するためのもの）
- ③短文への意識（わかりにくい文にならないための心構え）
- ④練習課題、和文和訳（無生物主語という概念を中心に、日本語を日本語に書き換えてわかりやすい文章について考える）
- ⑤二重の意味を持つ文章
- ⑥論理とは何か1（帰納・演繹について学ぶ）
- ⑦論理とは何か2（帰納・演繹について学ぶ）
- ⑧名文と悪文（名文・悪文と呼ばれるものの特徴、小説や詩のことばと、論理的文章のことばの違い）
- ⑨RST（リーディングスキルテスト）の実施（「教育のための科学研究所」が作成したテスト。結果は2学期に返却）
- ⑩わかりにくい文章を改善する課題（学年共通のもので、1学期の総まとめ課題として設定）

〈2学期〉

- ①パラグラフ・ライティング入門（トピックセンテンス＋サポーティングセンテンスという基本を学ぶ）
- ②200字のパラグラフを書く（自分の意見・考えを200字でまとめる）
- ③要約の仕方（要約してみても、評論で述べたいこと、そのための論理構造をつかむ）
- ④要約の実践1（文章の読解）
- ⑤要約の実践2（200字での要約）
- ⑥要約の実践3（文章の読解）
- ⑦要約の実践4（200字での要約）
- ⑧要約とパラグラフ・ライティングについてのまとめ
- ⑨パラグラフで意見を書く1（構想を練る時間）
- ⑩パラグラフで意見を書く2（200字で書く）

〈3学期〉

- ①パラグラフ・ライティングの振り返り
- ②800字意見文1（書き方とループリックの説明）
- ③800字意見文2（課題文読解）
- ④800字意見文3（意見文を書く、1回目）
- ⑤800字意見文4（課題文読解）

⑥800字意見文5（意見文を書く、2回目）

（下線を引いたものは、探究活動に関わる活動）

平成27年度と令和3年度を比べると、「探究活動」についての内容がなくなっている。令和3年度は、新型コロナウイルスへの対応のため、しばしばオンライン授業を挟みながらの実施となったが、そのような特殊な状況である点を考慮しても、「探究活動」関連はほとんど実施されなかった。

探究活動の「テーマ決定」について行っていた部分は、月に一回、土曜日に実施される「SSH探究基礎」の講座の中に吸収されていったために、「SSH現代文Ⅰ」で、直接、「探究のテーマ」について扱わなくなったばかりであり、発足当初からの「論理的な文章を書く」という目的と、「探究や他教科でのレポートなどで、実際に有効に活用できる技術」としての「書く力」を育むという目標が変化したわけではない。むしろ、「国語」でやっていた内容が、学校全体での取り組みへと発展していったと考えてよい。

探究活動についての指導を他の時間に回すことができた結果、さらに「書くこと」に力を注ぐことになった。ただし、週に1時間では限界もあり、大きく新しいことに踏み出しているわけではない。要約などをきめ細かく実施し、課題に対しての評価とフィードバックを行うこと、そこが充実しただけである。だけであるとは言いながらも、「書くこと」にとっては非常に重要な内容変更ではある。

新しい取り組みもあった。1年生のはじめに意見文を書かせて、それを3学期が終わった段階で振り返り、どのように変化をしたのか、生徒に自覚してもらうという取り組みである。まず、構成やパラグラフ・ライティングについての知識なしに意見文を書いた場合、どれくらいのものが書け、そして、知識と技術を獲得した場合、書き振りは変わるのか。それを意識した場合、授業づくりはどのように変化していくのか、考える材料としていきたい。

RST（リーディングスキルテスト<sup>®</sup>）は「論理的に書くこと」という「現代文Ⅰ」「SSH現代文Ⅰ」の基本的な目標とはややずれる試みである。しかし、自分自身の言語運用能力を客観的に確認するという意味で、今後の国語科全体の流れのためにも、1・2年生で実施していくというかたちになったものである。時間の調整の結果、「国語総合」ではなく「SSH現代文Ⅰ」で実施した。

平成27年度「現代文Ⅰ」から令和3年度「SSH現代文Ⅰ」まで、授業の内容の細かな部分は毎年毎年、担

当する各教員によって異なっている。学習材、課題の内容、課題への取り組みませ方、連携する他教科等々、バリエーションは多岐にわたっている。

しかし、「論理的に書くこと」という目的についてはおぼれることなく、担当する教員はもちろん、生徒も「論理的に書く」とはどういうことかを自覚しながら授業に取り組むことができた。

### 1-3 論理的に書くこと

「論理的」とは、ある事柄についての分析・考察・説明に筋が通っており、矛盾していないことである。矛盾している説明を論理的であるとは決して言わないが、「矛盾していないだけ」で「論理的」とは判断しないだろう。単なる事実を述べた場合、例えば、「赤いペンを拾った」ということばは、矛盾はしていないが、このままでは論理的であるとも論理的でないとも判断しないのが一般的なのではないか。何らかの分析・考察・説明をとまってはじめて、論理的かどうかの問題になる。そして、自分の考察について納得してもらったり、自分の意見の妥当性を説得できたりすることが、「論理的」であるということなのだろう。

「現代文 I」「SSH 現代文 I」で育もうとしている「論理的に書くこと」を定義しようとする、なかなか難しい。現行の学習指導要領では「イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。」<sup>①</sup>とある。また、新しい学習指導要領でも、「現代の国語」で「(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」<sup>④</sup>とあり、「論理国語」〔思考力、判断力、表現力〕では「情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。」<sup>⑤</sup>と書かれている。しかし、論理的とはどういうことであるかは、見えづらい。例えば、野矢茂樹『論理トレーニング』では「もっとも狭い意味で『論理』と言われるとき、それは『演繹』を意味する。」<sup>⑥</sup>としており、論理的であることを厳密に突き詰めようとする、かなり限定された状況でのことばしか対象にできなくなる恐れがある（「演繹」については、「現代文 I」「SSH 現代文 I」でも扱い、また、「SSH 探究基礎」でも扱っていく）。推論を述べる場面なら、演繹として「論理的」に書くこともできるだろうが、すべての説明がその範囲に収まるわけでもない。

国語で「論理的な文章」と言えば、説明文や評論を指すが、確かに論理的に書かれている文章もある一方で、

随筆に近いものもある。現在の教科書等の学習材における評論のあり方に疑問を呈しているわけではない。単に、「論理的な文章を書く」ことを目標にした時、随筆的な文章は手本にならないかもしれない、ということである。「現代文 I」「SSH 現代文 I」は、「国語総合」や「現代文 B」と異なり、そこまで教科書分類の「評論」にこだわることもない。

そこで、「現代文 I」「SSH 現代文 I」では、根拠を持った説明や、納得してもらうための構成、わかりやすいパラグラフ作りなどを積み重ねることが「論理的に書くこと」につながると考え、授業を作ってきた。「論理的」であるとは、「内容」に関して「論理的である」という側面もちろんあるのだが、探究活動を含めたあらゆる話題について、全てに当てはまる「論理」を示すことは、おそらくできない。そうなれば、国語という範囲で教えるべきなのは、相手に伝えるときの型を示すことなのではないか。主語と述語の対応関係を確認しながら文を書く。トピックセンテンスを最初の一文に書く、というパラグラフの書き方。序論・本論・結論という構成。そのような型を、実際に書くという行為を通して身につけていけば、他教科や探究活動、そして将来において何かを書くときに役立つ「論理的に書く力」が備わっていくはずである。

型よりも、閃きや発想や感性が大切な場合もあるかもしれないが、それは「現代文 I」「SSH 現代文 I」の範囲外とする。思考の内容については、「国語総合」や2・3年の「現代文 B」「古典 B」で扱うことができるだろう。「現代文 I」「SSH 現代文 I」は扱う範囲をあえて狭めることによって、むしろ他教科との連携を目指す科目である。型の通りに書くということで、むしろ内容こそが重要であることにもつながる。レトリックを駆使した文章が必要になる場面もあるかもしれないが（詩や小説の創作など）、「現代文 I」「SSH 現代文 I」で目指す「論理的に書くこと」は、むしろそういった修飾を外していく書き方になる。

「論理的である」とは、ある事柄についての分析・考察・説明に筋が通り、矛盾していないことであり、それはパラグラフや構成の型を通して理解することができるものである。我々はこの学校設定科目「現代文 I」「SSH 現代文 I」において、国語で育む領域のごく一部分だけを扱った。しかし、その一部分は応用することができる部分であり、今後の探究活動を中心とした主体的な学びにつながってくる部分である。「現代文 I」「SSH 現代文 I」の試みは今年度（令和3年度）で一つの区切りを迎えるが、「論理」を意識した「書くこと」の授業の蓄積は、今後の授業づくりにもつながってくるに違いない。

## 2 「現代文I」「SSH現代文I」の実践

「現代文I」「SSH現代文I」で実施されたいくつかの授業について紹介する。

### 2-1 1学期（「文」を中心とする学期）

#### 2-1-1 現代文I導入（平成27年4月）

内容：現代文Iの年間の予定を確認する。日本語の規則について学び、語の入れ替えを行うことで日本語のあり方を意識する。

配布物：図1参照

課題：授業の感想を提出

**現代文I**

二つの柱

- ・ 二つの書方 文の書き方を意識することで、論理的な思考方法を学ぶ。
- ・ 探究テーマ 探究テーマを学ぶことを通じて、「問題を解決する方法」を学ぶ。

1学期 短文を書く  
探究テーマの決定

（国語総合）現代文Iコマ + 古典2コマ  
1・2学期は中間考査・期末考査があり、3学期は期末考査がある。  
考査の結果と自分の授業の進捗を合わせて、各学期「現代文」0・10・20題・0・10の準備がそれぞれつく。

学生全体として、学年末に「国語総合」全体、1・5の評価がつく。（単位）

（現代文I）現代文Iコマ  
国語総合の中から分けられる「現代文I」は、**探究テーマを決定して、書く練習の目標**を達成させることで、**現代文I」の1・5の評価**がつく。

\*今年度から始まったもので、先輩に聞いても「なんぞそれ？」と聞かせるだけで、有益な情報は得られていない。

ノート 縦書き（ルーズリーフなどでも可）  
配布資料 二六ファイル（高岡）配布予定  
探究の手引き 五五配布予定

（例文）  
1 買った。  
2 1 私はいはスカーフを買った。  
2 2 買ったスカーフを私は。  
3 1 私は昨日（つ）ティラックで、新しいスカーフを買った。  
3 2 昨日ティラックで買ったスカーフを私は買った。  
3 3 プライアックで買ったスカーフを私は買った。  
3 4 プライアックで昨日私は買ったスカーフを買った。  
3 5 1 プライアックで昨日私は買ったスカーフ、  
3 5 2 プライアックで昨日私は買ったスカーフ、  
成立を成立、自分としてはいいと思うが、  
なぜそれが「いい」と思うか。

（例文）  
さきままでのこと思ひ出されかな 芭蕉

図1

解説：平成27年度から令和3年度まで実施された「最初の授業」。「私はスカーフを買った。」という文を「スカーフを私は買った。」に変えても、日本語として問題はない。日本語は助詞によって語の役割が決まるため、語順については緩いという特色を知ることになる。規則としての緩さがあるが、使い手が気をつけていけば、論理的なことばとして使っていくことができる点を強調している。

### 2-1-2 和文和訳（平成27年5月）

内容：動詞中心文⇄名詞中心文を通して、日本語の特色をつかむ。

配布物：図2参照

課題：和文和訳の課題に取り組み、それを提出。

解説：和文和訳については、野内良三『日本語作文術伝わる文章を書くために』<sup>⑦</sup>をもとにしている。こなれた日本語である動詞中心文と、無生物を主語とした名詞中心文とを行ったり来たりすることで、それぞれの場面にふさわしい日本語の使い方の選択を促す。

現代文I 第1回

（国語総合）  
東京駅の朝の通勤ラッシュについて調査した。まず、通学に利用する時間帯の中で発車時刻が異なる本の列車を調査対象として選んだ。そして、実際に乗車して乗客の数を調べ、混雑率を計算した。その上で、どの列車のどの号車が最も混雑するかについて分析し、さらにその要因について考察した。その結果、混雑率は「発車時刻」「列車種別」「終着駅」という三つの要素によって決定するといえる結論を得た。

和文和訳  
日本語の特色  
主観的・目的の状況や風景を説明する。  
「自分が見て、感じた」ことを説明する。  
何も反らなければ、「語り手」の視点で書かれている（読まれている）。

動詞中心文  
こなれている。  
日本語らしい文になる。  
主観的なもの、目的の状況

名詞中心文  
硬い  
抽象的な説明  
無生物主語

和文和訳  
「それは」が得ている内容を明確に。  
目的・方法・姿勢・結果という探究プロセスを意識する。  
読点を試みて。  
文章短く。  
読点の位置を調整して、リズムを整える。  
「それが」が得ている内容を明確に。  
「自分が見て、感じた」ことを説明する。  
何も反らなければ、「語り手」の視点で書かれている（読まれている）。

（国語総合）  
「文」は短く、が原理として、抽象的な説明・数値を添える。因果関係の説明など、論理的・説明的な文章では「二つの要素を一文にする」ほうがわかりやすい場が多い。  
「長さの短さ」を決定するのは難しいが、次のような二つの要素を念頭において、文をつくる。説明もつながら、かつ、長くて読みづらいという状況を回避する。  
原因が、×××を起した。  
長い主語は、○×である。  
時間空間については、△△である。

物価の上昇はあつたがスライキが止まらなかつた。  
・ 名詞中心文に変える（無生物主語は注意）  
・ 形容詞・形容や性質を示す。主に名詞につながる。動詞（主に用言）につながる。  
・ 無生物主語 → 原因・理由・手段・条件・場所・時間

◇解答例  
物価が上昇しているのに、スライキが止まらなかつた。  
物価、ストップをいう。無生物が主語になった。また、物価の上昇が、物価が上昇している。に変わっている。  
止まらなかつた。→ 止まらなかつたまま。  
→ 主観は必ずしも必須ではない。

（日本語の論理）  
一、述語が文に置かれる。  
二、修飾語が修飾語の前に置かれる。  
いわゆる英語のような「主語があるわけではない」。「述語（動詞）に向かって流れていく」という形をとる。  
\* 英語の文法、西洋の論理とは異なっている。日本語は非論理的と認識されることもあるが、そうではない。これは、その二つの内側で、論理性を持つ「もろもろ」、話題としての向き、向きは異なる。

図2

### 2-1-3 テーマ決定の練習（平成27年5月）

内容：探究のテーマについて考える。この段階ではあくまでもテーマを考えるという活動そのものに意味があり、そのまま2年生の探究になるということはない。

配布物：図3参照

課題：このときに考えた探究テーマを書いて、提出。  
解説：探究テーマは「大きすぎない、答えが出せる仮説を立てる」「探究の方法が実現可能かどうか」「既存のものではない」といったこと







A と連携することで、クラス内での共通認識を活かして説明することができた。その一方で、国語の教員である私の地理用語の認識不足も露呈してしまった。視覚情報を言語化するとき、情報をいかに精選するかということと、説明する相手が何を知っているかによって使うべきことばが変わっていくことを、生徒は理解していた。

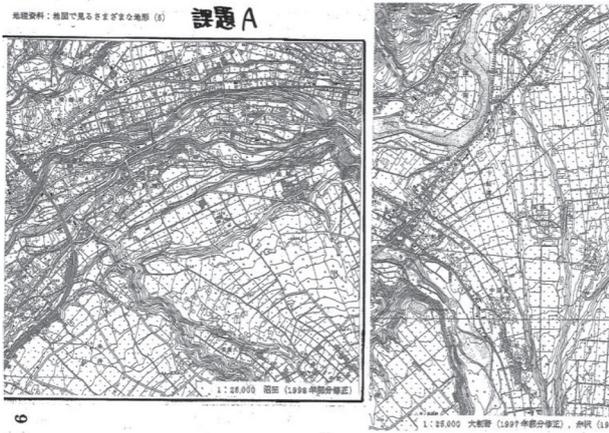


図 10<sup>9)</sup>

図 12

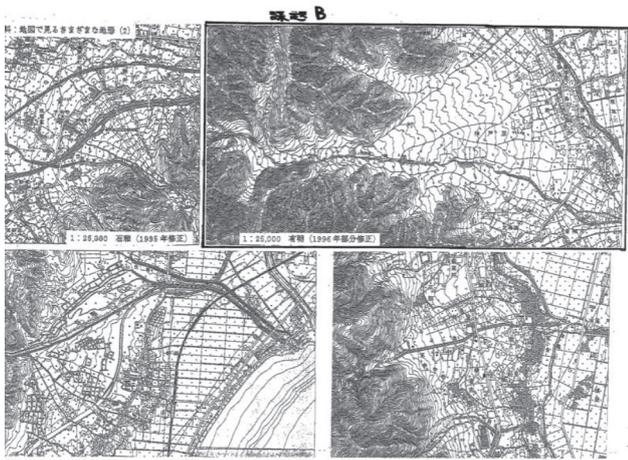


図 11<sup>10)</sup>

2-2-4 200字意見文 (令和3年11月)

内容：環境保全についての文章を読み、自分の意見を200字で書く。

配布物：小論文問題<sup>11)</sup>「保全」か「保存」か

課題：Google フォーム (図 13) に意見を入力。

解説：どちらも外来種であるモウソウチクとブラックバスについて、架空の市民団体が述べる意見 (モウソウチクもブラックバスと同様に排除して、本来の日本の風景を取り戻すべきである) に反論する。生徒にはループリック (図 14) を示した。ループリックは3学期の800字意見文のループリックをもとにして作成し、「内容」「構成 (パラグラフ)」「表現 (誤字脱字等がない)」で評価した。



図 13

現代文 I 三学期 意見文

	キャプストーン		マイルストーン		ベンチマーク
	1	2	1	2	
内容	課題を理解し、自分の考えを述べた文章が書かれている。	課題を理解し、自分なりに考え、自分の主張への根拠も書かれている。具象と抽象のレベルが明確であり、論理的な説明がされている。	課題を理解し自分なりに考え、自分の主張への根拠も書かれている。根拠が明確で、適切な根拠が示されている。	課題を理解して取り組み、自分の考えを示している。	課題を理解して取り組んでいる。
構成1	序論、本論、結論が適切に配置されている。	序論、本論、結論が適切に配置され、それぞれが意義を持って結びついている。根拠が明確で、適切な根拠が示されている。読者の納得を得られる構成になっている。	序論、本論、結論が適切に配置され、それぞれが意義を持って結びついている。根拠が明確で、適切な根拠が示されている。読者の納得を得られる構成になっている。	序論、本論、結論が意識されている。	序論、本論、結論が意識されている。
構成2	複数の「トピックセンテンス」で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の「トピックセンテンス」で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の「トピックセンテンス」で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の「トピックセンテンス」で構成されている。	複数の「トピックセンテンス」で構成されている。
表現	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。

図 15

2-4 評価について

「現代文 I」「SSH 現代文 I」は、定期考査は行わず、授業中の取り組みと提出された課題によって評価した。1学期の評価の例として、以下の図 16 のように、授業ごとにルーブリック評価（評価の軸が一つのもの）を行うものがあった。1学期は振り返りや授業の感想などから、メタ的な視点を獲得しているかどうかなどで評価している。令和 3 年度には、学年共通の「まとめの課題」を作成（図 17）し、「文章を推敲」させ、それを一定の基準で判定していくことで生徒を評価した。2学期は、要約や 200 字意見文などでパラグラフ・ライティングが型の通りにできているかを中心に、提出された課題を見ることで評価した。3学期はルーブリック（図 15）に基づいて評価した。

生徒をどのように評価するかは、我々自身の授業の内容と目的が合致しているか否かにつながっている。平成 27 年度から令和 3 年度まで、「現代文 I」「SSH 現代文 I」に関しては、ある意味で狭く作られた目標（「論理的に書く力を獲得させる」）に対して、狭かったからこそ、まっすぐに向き合い、達成することができたのではないだろうか。

SSH 現代文 I 意見文 ルーブリック

	キャプストーン		マイルストーン		ベンチマーク
	1	2	1	2	
内容	課題の内容を理解できているかどうか。	課題を理解し、自分なりの考えを、論理的に根拠を示しながら、簡潔に述べられている。	課題を理解し、自分なりの考えを、論理的に根拠を示しながら、書くことができる。	課題を理解し、自分なりの考えを、論理的に根拠を示しながら、書くことができる。	課題を理解して取り組み、自分の考えを示している。
構成1	序論、本論、結論が適切に配置されている。	序論、本論、結論が適切に配置され、それぞれが意義を持って結びついている。読者の納得を得られる構成になっている。	序論、本論、結論が適切に配置され、それぞれが意義を持って結びついている。読者の納得を得られる構成になっている。	序論、本論、結論が意識されている。	序論、本論、結論が意識されている。
構成2	複数の文で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の文で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の文で構成され、トピックセンテンスがパラグラフの内容を有効に支えている。	複数の文で構成されている。	複数の文で構成されている。
表現	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。	誤字、用語の誤りがない。一定の長さや主語の扱い、読点の位置に工夫が見られ、それぞれが文章のつながりが意識されている。よみやすい文章になっている。

図 14

2-3 3 学期 (800 字の文章を書く)

課題文を読み、それについての意見文 (800 字) を書くということを、複数回行う。序論・本論・結論の構成を基本とし、ルーブリックを生徒にも配布し、それに沿って評価する (図 15)。ルーブリックは「内容」「構成1 (序論・本論・結論)」「構成2 (パラグラフ)」「表現 (誤字脱字等がない)」で評価する。

3 学期の意見文の課題については、「日本における英語公用語化の是非」「人間とは何か」「貧困と自己責任」「新型コロナウイルスがもたらしたもの」などがあった。「課題文を読解する」→「読解内容の確認、共有」→「自分の意見を考える」→「意見文の書き方の確認」→「意見文を書く」という流れになっていた。

「現代文 I」1 学期ルーブリック

観点	学習目標	1 (ベンチマーク)	2 (ベンチマーク)	3 (マイルストーン)
書く力	第2回 1A	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
書く力	第3回 1A	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第4回 3B	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第5回 3B	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第6回 1A	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第7回 1A	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第8回 3B	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.
読む力	第9回 1A	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72.

【SSH現代文Ⅰ】1学期のまとめテスト(30分間)

課題 以下の文章は、朝日新聞の朝刊(2021年5月21日付)に掲載された※「ごはんラボ」の記事を7箇所改変したものです。1学期に学習したことをもとに、読み手に伝わる文章に書き直さない。改めたところはわかるように赤字にし、解答欄に書き直さない。

※ごはんラボ…家で食べたい基本のメニューを、おいしく、楽しく作れるように、調理科学の視点から合理的なレシピを探ります。初心者には料理力が身につく、ベテランにも発見がある食の情報。

今回のテーマは保存とおいしさを両立させる冷凍術です。鶏胸肉を素材に、よりおいしくなる冷凍方法を有馬邦明シェフに教えます。注意すべきは素材の水分。水分の凍結は細胞破壊へと帰結し、急激な解凍は肉汁の流出をもたらします。

それを防ぐために、ほどよく肉の水分を抜いてから凍らせると、冷凍で日持ちがよくなるだけでなく、水分を抜くことでうまみ成分が凝縮され、よりおいしくもなっていくと一石二鳥です。キッチンペーパーやさらしに巻くだけでも効果はあります。まめに取りかえないと出てきた水分が表面で酸化し、においが移ってしまいます。

そのため、今回は専用のアイテム「脱水シート」を使いました。使い方は簡単。肉をシートに包み、冷蔵庫に数時間置くだけ。その後、ラップに包み替えて冷凍され、調理の前に解凍します。(小林未来)

68期 組 番 氏名

図 17

### 3 新しい学習指導要領との関わり

#### 3-1 「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の意義と課題

「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」は、学校設定科目として、教科書を使わずに授業と課題を作っていたことが大きな特色である。「国語表現」などの教科書など、テキストとして使えるものがあるかどうか、模索はしたものの、結局、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の目的に合致するテキストはなかった。文章の書き方に関して、論理の組み立て方に関して、論的とはどういうことかについて、探究テーマの仮説に関して（探究のテーマについては、後に「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」からは離れたけれども）、様々な書籍の内容を切り貼りして作り上げていったのが、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」である。本稿の「2『現代文Ⅰ』『SSH 現代文Ⅰ』の実践」で示したのはその一部であり、内容も補助テキストも常に手探りであった。

「良い文章とはどのようなものか」「論理的とはどういうことか」「探究のテーマと向き合うにはどうしたらいいか」といったことに、我々が真剣に向き合うことができた意義は大きい。これまでも通常の国語の授業（「国

語総合」「現代文B」)において、「論理」や「書くこと」の力を育む授業を実施してこなかったわけではない。しかし、1年間を通して「論理的に書くこと」に取り組み、その力を獲得するという目標が掲げられたとき、しっかりと土台から考えないわけにはいかなかった。そして、「論理的に書く」ことは、意外にも定義が見えづらく、評価するのも容易ではないということがわかってきた。明確な方法が定着したわけではないが、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の試行錯誤の中で、どうすれば生徒が自覚的に「論理的に書くこと」に取り組めるのか、少しだけ見えてきたところである。目的が「論理的に書くこと」に集中しているからこそ、それが達成できていないときには方向性が間違っていることが明確にわかる。それをどのように修正していけばいいかということも、目的が絞られているのでわかりやすい。「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の授業を作っていくことで、「論理」「書くこと」への理解がさらに深まったのである。

その一方で、授業の効果の検証についての検証は不十分な面も残ってしまった。生徒の書くことに対する意識は高まり、力も十分についてきているという実感はある。また、他教科からも生徒の意識が変わり、効果があったという話を聞いている。課題を与え、生徒を評価し、フィードバックし、というサイクルのなかで、より良い授業が出来上がってきている。しかし、本来の目的であった他教科や探究活動において、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」で獲得した力が十分に発揮できているかどうかは明確に捉えられていない。教科の外に向かう視点を持ちながらも、結局のところ、科目のなかでの評価、それ以上のことはできていないのが現状である。

授業づくりのみに集中するのではなく、学習全般における「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の位置づけも問わなければならない。学習全般における位置づけをはっきりさせる手段として有効なのが、他教科との連携である。ところが、残念ながら、令和2年に新型コロナウイルスへの対応が始まってから、他教科との連携は停滞している。本来であれば、他教科との連携によって、獲得した「論理的に書く」力がどのように発揮されるか見ることができたのであり、また、他教科がどのようなことを国語に期待しているのかもわかったはずである。しかし、連携の停滞によって、そこが可視化できなくなってしまっていることが問題であり、国語以外の場面で力を出すことができるかどうかを確認することが、今後の課題であろう。

また、生徒の内側で国語の力がきちんと統合されてい

るのか、あるいはどうすれば統合させられるのか、ということも課題である。「書くこと」が完全に孤立して発揮されることはなく、「読むこと」「聞くこと」「話すこと」といった他の国語の力と統合されて、はじめてことばのより良い運用につながっていく。実際に、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の授業でも、要約・意見文を書くときには前提となる「課題文」を「読解」することが多かった。「読むこと」が混じってくることで自体は仕方ないことで、純粋に「何かを書くこと」だけを行うのは非常に難しいことであるし、「書くこと」だけにこだわった「国語」に意味はないだろう。「書くこと」「読むこと」「聞くこと」「話すこと」は、いずれもことばの力として相互に関わっているし、国語はそれらの力を総合的に伸ばしていかなければならない。「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」はそのなかの「書くこと」に特化しているからこそ意義があると考えてはいるが、授業を離れた場面では、生徒自身の内側でそれらが統合されなければならない。「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」だけで考えていくと、この「統合」させるという点が弱点となっている、と言える。

令和4年度から学校設定科目としての「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」はなくなってしまう、「論理的に」「書くこと」は、国語の領域内で扱っていくことになる。ここであげた意義をきちんと理解しつつ、課題について取り組んでいかなければならない。継続すべきところと改めるところを明確にしながら、違う形で「論理的に書く」力を培っていく必要がある。

### 3-2 今後の展開

「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」は令和3年度でカリキュラムから姿を消すが、発信することの重要性はますます高まってきている。次の学習指導要領でも「(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」<sup>④</sup>（「現代の国語」。「言語文化」にも同じ目標が掲げられている）「(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」<sup>⑤</sup>（「論理国語」）とあり、「論理」と「他者との関わりの中で伝え合う力を高める」ことが強く結びつけられている。今後はこれまで以上に「発信すること」に生徒の意識が向かわなければならない。そして、「書くこと」は、「現代の国語」で30～40時間、「論理国語」では50～60

時間、割り当てなければならない、具体的に「書くこと」の授業を計画しなければならないことになったのである。

「書くこと」を意識した授業づくりにおいて、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」で培った方法は、生徒の自覚を促すという意味で、非常に有効である。「論理的に書く」ことを目的にしており、「論理的であるとはどういうことか」「書く力を何のために身につけるのか」ということを明らかにしながら、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」は作られてきた。そのような授業は、生徒の「書くこと」への自覚を確実に促すだろう。その蓄積が、今後の新しいカリキュラムの中でも活かされていく。

令和4年度からは、具体的には「現代の国語」において「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」の取り組みが生きてくるはずである。今後は、他の国語で育むべき力（「読む」「話す」「聞く」）との関係性・他教科や探究活動との関係性・学校を卒業した後の「書くこと」との関係性といった、「論理的に書くこと」とその外側との関係性が重要になってくる。それは「現代の国語」の中での力の統合という課題でもあるし、「論理的に書く」力が発揮される場面の問題でもある。書くことについての知識や技術から出発して、論理的に思考する力を養い、全ての教科の基礎となり、生涯にわたることばの力が獲得できるよう、「現代文Ⅰ」「SSH 現代文Ⅰ」で築き上げたもの（具体的な授業の方法、あるいは、授業を作り上げていく意識）を次の段階へとつなげていきたい。

〈注〉

- ①『学習指導要領』「第2章 各学科に共通する各教科 第1節 国語 第2款 各科目 第1 国語総合」2009年
- ②本校の1年生が受ける授業。月1回、土曜日の4時間を使って実施されている。探究を進めていくための講座（仮設のたて方・テーマ決定、演繹や帰納について、統計処理等々）と研究者による講演からなる。2年生で本格的に各自の探究を進めていくための基礎を身につける授業である。
- ③リーディングスキルテストについては、「教育のための科学研究所」ホームページ（<https://www.s4e.jp/>）参照。
- ④『学習指導要領』「第2章 各学科に共通する各教科 第1節 国語 第2款 各科目 第1 現代の国語」2018年
- ⑤『学習指導要領』「第2章 各学科に共通する各教科 第1節 国語 第2款 各科目 第3 現代の国語」

2018年

- ⑥野矢茂樹『新版論理トレーニング（哲学教科書シリーズ）』産業図書、平成18年
- ⑦野内良三『日本語作文術 伝わる文章を書くために』中央公論新社（中公新書）、平成22年
- ⑧倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」「パラグラフ・ライティング」入門』講談社（講談社ブルーバックス）平成24年
- ⑨「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 沼田（1998年部分修正）」「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 大割野（1997年部分修正）、赤沢（1994年修正）」
- ⑩「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 有明（1996年部分修正）」「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 石和（1995年修正）」「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 海津（1999年部分修正）」「国土交通省国土地理院2万5千分1地形図 養老（1997年部分修正）」
- ⑪代々木ゼミナール『2013新小論文ノート』代々木ライブラリー、平成24年